

シャンティ山口 ニュースレター

第86号

発行：2011年3月28日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

～えびすやミニコミ誌～

いどばた がいき



No.56



特集

“モンの人々”と共に歩んで・・・

“モンの人々”と 共に歩いて・・・


EBISUYA
It's nice, this life.
株式会社えびすや
ホーミングえびすや



今回は、タイ北部の山岳少数民族を支援しているNPO法人『シヤンテイ山口』で事務局長をされている佐伯昭夫さんにお話を聞かせて頂きました。

青年僧との出会い

一人の青年僧との出会いが私の人生を大きく変えたんです。それは1987年、ある福祉関係の会場で初めて出会った時の事ですが、彼はベトナム戦争やラオスの内戦に伴って、タイ北部など国境の山岳地帯に逃げ込んだモン族について話してくれました。難民キャンプの小屋はすし詰め状態で地べたで寝る人も多かったそうです。

その当時、ベトナム戦争の終結は毎日の様にテレビで伝えられていましたので、小舟で海外へ亡命しようとする『ボートピープル』

の姿は今でも脳裏に焼きついています。しかし、モン族の事も、戦争で少数民族が影響を受けた事を知るのも初めてだったので、大きな衝撃を受けました。

活動への参加

そしてまた、別のメンバーの一人が難民キャンプでモン族の高齢女性が言った言葉を教えてくれました。『何もしてもらわなくてもいい。あなた達に来てもらえるだけでいいんです』と。お金や物を援助するだけでなく『心の支え』も必要とされているんだと。これなら私にも出来るはずだ！と強く思い、活動への参加を決めたんです。



佐伯 昭夫さん (66)



遠い村からやってきた新寮生。始めは町での集団生活に慣れなかった子供達も初めての里帰りを終え、笑顔で戻ってきました。お土産は「たくさんのお話」



新しく建て替わった蒙の『文化センター』と『図書館』

『シャンティ山口』発足

その後、タイ国内では1992年にラオス難民キャンプが閉鎖され、帰還出来ない多くの少数民族問題が発生しました。定住しても農地は十分ではなく、収入はタイ人の10分の1という村落もあり、多くの人達が貧困にあえいでいたのです。

『シャンティ山口』は1993年3月に発足して以来、モン族をはじめとする山岳少数民族の人々の定住支援や自立支援などの活動を村の人達と協働で行ってきました。それは、『モン族の伝統文化を尊重し、モン族としての自尊心を持つてタイで暮らしていく』為のお手伝いと『子供達の教育支援』『女性の立場を高めていく』事でした。

信じられない光景が・・・

1998年初めて雨季に訪問し、そこで信じられない様な光景に出会ったんです。それは子供達が水溜りで遊んでいたのですが、人糞

の塊をおもちやにしていたのです。糞の塊が地表水を流れ、水溜りに浮いていて子供達はその中を平気で遊んでいるんです。その時から汚染と感染症の問題が日常的にある事を深く考えるようになりました。そんな衛生問題に直面し、翌年から現地の保健所の協力を得て、トイレの普及活動も始めたのです。当時のモン族の集落ではトイレがないか、家の外に竹とワラで作った簡単な小屋を建て、その下に素掘りの穴を掘って、穴に茅をかぶせておくのが普通だったんです。



簡素な古いトイレ

昔の農村の知恵

それと、モン族には人糞を肥料に使う習慣がなくて汲み取りが必要となるのですが、それだけでなく貧しい彼らにそんな資金的余裕はありません。それで雨季になると地表から人糞が流れ出ていたのです。そして、井戸水の水質検査を行うと、やはり大腸菌に汚染されていた。何とかしなければと考えていた時、ふと思いついたのが子供の頃にあった『肥溜め』だったんです。日本に昔からあった『農村の知恵』が応用できないかと考えました。そして出来たのが、まず5つの槽に流し込んだし尿が自然に発酵し人体に悪影響を及ぼす大腸菌などを死滅させ、さらに微生物の働きで病原菌を殺してその後出来る栄養価の高い真水を畑に引き込むのです。これにより、野菜などの植物栽培にも有効利用できるんですよ。

技術畑の知識が生きた

私は現役時代、山口県企業局で工業用水の管理などを担当しておりましたので、技術畑を歩んできた知識がここでやっと生かされたような気がして本当に嬉しかったですね。そして、材料も現地で手に入るものだけで作れないかと2年余りかけて試行錯誤を続けた結果、2005年の10月にやっと理想に近いトイレが完成しました。

エコトイレ完成!

その後、2007年度に環境省の地球環境基金からの助成を受け、し尿を浄化する過程で発生するメタンガスを収集して家庭用燃料へ転換する装置にも取り組みました。実験を繰り返してやっと出来たのが自然循環浄化システム『エコトイレ』なんです。トイレから発生したガスで煮炊きを賄う事により、薪の節約、しいては森林の伐採を減らす事にもなります。そして、



自らも汗を流す佐伯さん



みんなで協力して!



トイレとガス収集タンク



自然循環浄化システム
『エコトイレ』

やった〜! 火がついた! と大喜び



モン族の台所の様子



一般的な住宅





トイレが完成して、佐伯さんと一緒に喜ぶ保育園の子供達

自然エネルギーを最大限に利用し
 地域環境整備をする事で地球の延
 命に役立つと共に住民の暮らしの
 向上につながると確信しています。

タイ政府が動いた！

最初は『シャンティ山口』の自
 己資金で個人の住宅や学生寮など
 のトイレの設備を作ってきました
 が、最近では色々な助成を得て、
 村の広場の公衆便所や保育園、学
 校宿舍、図書館などにも設置しま
 した。その結果、村の人達から
 『臭いがなくなり快適になった』
 『便所と思えないくらいきれいに
 なった』 『野菜がよく育つようにな
 った』 『病気もなくなるだろう』
 などの嬉しい声が聞かれるようにな
 り、他の村からの問い合わせも
 くるようになりました。それによ
 りタイ政府も動き始めたんですよ。



この子の瞳の先にあるものは・・・

顔の見える支援と交流

しかし、一方的に私達が作って
 あげるだけではいつまで経っても
 彼らの自立にはつながらないので、
 いずれは現地の人達だけで作れる
 ようにならなければと、最近はその
 指導にも力を入れています。
 『シャンティ山口』は今まで学生
 寮や学校などの建設、子供達への
 奨学金の支給や寮の運営、その他
 色々な活動を村の人達と一緒にな
 って行ってきました。これからも
 『顔の見える支援と交流』を続け
 ていきたいと考えております。そ
 して、これらの活動を少しでも知
 って頂く事でモンの人々の事はも
 ちろん、今の私達の生活を振り返
 ったり心の豊かさというものに少
 しだけ気付いてもらえたらと思っ
 ております。そうする事で何かの
 変化、きっかけになれば嬉しい限
 りです。今後とも皆様方のご理解
 とご協力を宜しくお願い致します。

NPO法人 シャンティ山口

事務局 山口市大内矢田717 佐伯 昭夫
 TEL&FAX 083-927-4083
 H P <http://www.shanti-yamaguchi.com/>
 E-Mail saeki.teruo@cameo.plala.or.jp



子供達はどこでも元気いっぱい！！

『お願い』と『お知らせ』

平素は、『えびすや』をご愛顧賜り誠にありがとうございます。また、『東日本大震災』で被害にあわれました皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。そこでこの度、弊社では被災地の復興に少しでもお役に立てればと言う事で社員の募金と合わせて100万円を寄付させて頂く事と致しました。つきましては、9月実施予定でご案内しておりました『第53回ご招待旅行』を中止し、来年2月の旅行と併せて行う事に致しました。9月の旅行を楽しみにしておられましたお客様には大変申し訳なく存じますが、ご理解を賜ります様宜しくお願い申し上げます。また、ミニコミ誌『いどばたかいぎ』の6月号に関しましても休刊して8月号より再開させて頂きます。上記の件、誠に勝手ではございますが、ご理解を賜ります様心よりお願い申し上げます。

株式会社 えびすや
代表取締役社長 田村讓二

～ へんしゅうこーき ～

今回、取材させて頂いた『シャンティ山口』の佐伯さんは、
今までに61回もタイを訪問されているとお聞きし、
そのバイタリティーにビックリしました。それも、お金や
物を贈るだけでなく、自ら現地で汗を流して活動されている
事に頭が下がる思いです。今日の物余りの世の中で
『真の豊かさとは何か?』を考えさせられました。
本当にありがとうございました。

企画広報室 岡部 治子

今回の表紙は、畑の中で笑顔で作業をするモンの子供。
(写真は佐伯事務局長さん撮影)

LPガス・増改築専門店
株式会社 えびすや

〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目2番12号

TEL 083-922-0804 FAX 083-923-8753

偶数月(年6回)発行 編集責任者 株式会社 えびすや 企画広報室

—環境衛生活動募金にご協力をお願いします。—

2011.03.28saeki